

阿武隈中山間地域においてキンギョソウの 春夏作型では摘心栽培が可能である（飯舘村）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 阿武隈中山間地域におけるキンギョソウの栽培実証(飯舘村)

担当者 佐藤優平

I 新技術の解説

1 要旨

夏期冷涼な阿武隈中山間地域では、花きを導入した農業経営が増加している。そこで、新たな品目として期待されるキンギョソウについて、無摘心栽培と比べて定植本数を少なくできる摘心栽培を実証した。その結果、春夏作型では開花盛期が6月下旬となり、切り花長が平均80cmを超える切り花を生産することが可能であった。

- (1) 2021年4月21日に定植した春夏作型では、開花始期が6月27日、盛期が6月29日、終期が7月1日となり、6月下旬ごろに収穫が可能であった(表1)。
- (2) 切り花品質は、切り花長が88.6cm、花穂長が28.5cm、茎径が7.1mmとなり、ほとんど上位規格で収穫することができた(表1、図2)。
- (3) 春夏作型の摘心栽培は7月上旬までに開花及び収穫を終えるため、秋冬作型の8月上旬に定植する無摘心栽培と組み合わせることで、出荷時期の拡大が可能となる(図1)。

2 期待される効果

- (1) 阿武隈中山間地域におけるキンギョソウ栽培の参考となり、キンギョソウが営農再開時の導入品目として期待できる。

3 活用上の留意点

- (1) 摘心は定植後本葉5対の段階で本葉2対を残して摘心し、摘心後は2本仕立てとした。
- (2) 春夏作型では、早生系品種を供試すると草丈が確保できないため、中晩生品種を使用する。
- (3) 今回は中晩性品種である「ポトマックアーリーホワイト」を供試した。
- (4) ハウスサイドの開閉には、自動開閉装置を使用した。
- (5) 秋冬作型で定植時期が遅れると凍害の影響を受ける可能性があるので注意する(図3)。
- (6) キンギョソウをプラグ苗で購入した場合、1トレイ(406穴)で約6200円であった。
- (7) 管理が比較的省力的であり、通い農業でも栽培可能であった。

II 具体的データ等

表1 春夏作型における摘心栽培の切り花品質

定植日	栽培方法	開花期			切り花長 (cm)	花穂長 (cm)	茎径 (mm)	出荷規格別割合(%)			
		始期	盛期	終期				80cm	70cm	60cm	50cm
4月21日	摘心	6月27日	6月29日	7月1日	88.6 ± 10.2	28.5 ± 0.8	7.1 ± 0.1	98.6	1.4	0	0

※中晩生品種である「ボトマックアーリーホワイト」を供試した。
 ※開花期は調査花の始期:10%、盛期:50%、終期:90%が開花した日。
 ※切り花長、花穂長、茎径は平均値±標準偏差。
 ※摘心は5月6日に行った。

作型	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
春夏作	摘心栽培			●			▲			■																	
	無摘心栽培			●			■																				
秋冬作										無摘心栽培			●			■									凍害の可能性		

※●は定植、▲は摘心、■は開花期を示す。

図1 飯舘村におけるキンギョソウの栽培暦（パイプハウス内）



図2 春夏作型における摘心栽培の様子



図3 凍害を受けたキンギョソウの葉

III その他

1 執筆者

佐藤優平

2 実施期間

令和3年度

3 主な参考文献・資料

令和2年度営農再開実証技術情報「阿武隈中山間地域におけるキンギョソウ栽培の実証」（福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センター）